

### 3. 次世代インフラ

#### ■ゴール:「サステイナブルで強いインフラ」

【第19回未来投資会議(H30.10.5) 資料5 抜粋】

- 道路・トンネル・橋梁・上下水道など全てのインフラ台帳をデジタル化し、点検・補修作業は、AIやロボット・センサー等の革新技術を採用。
- 民間の力を用いた、インフラの効率的な維持管理を実施。
- センサー等で収集した利用頻度や損傷度等のデータをもとに、メリハリの利いたメンテナンスを実施。
- インフラの老朽化が進む中、自然環境の変化による災害の頻発を踏まえた防災の観点も含め国民の安全・安心の向上、インフラの長寿命化・更新、財政的にも持続可能なインフラ管理システムを実現。

#### ◆ 以下の項目等について検討

- 点検・診断、管理台帳、工事記録等のインフラデータを紐付けた維持管理支援情報システムを全国で導入
  - インフラ台帳等のデジタル化
  - システム活用による予防保全を行うことでインフラ維持コストの低減を図る自治体に対して財政的なインセンティブ
- コンセプション等の手法を拡大して民間の創意工夫で効率的なインフラ維持管理を実現するため、これらの導入に取り組む自治体等の施設管理者にインセンティブを付与する仕組みを検討
- AI、ロボット・センサー等の革新技術の実装
  - ドローン等の活用で人による近接目視対象数を減少させる
  - 各インフラ分野ごとにロボット等の有望技術を現場実装する
  - 発注者等が安心して新技術を活用できるよう点検ロボットやドローンの安全基準を策定
- 技術職員が不足する中小自治体への支援体制構築
  - 中核市から周辺市町村に対するサービス提供や市町村間の共同処理
  - 包括的民間委託による巡視巡回支援や包括的民間委託への点検・診断業務の組み込み